

すべての子どもたちの 可能性を引き出す、 個別最適な学びと 協働的な学びの実現



世界的なICT化の進展は、日本の教育現場にも大きな変化をもたらしています。国は、令和の学びのスタンダードとして「GIGAスクール構想」を掲げ、子どもたちが情報化社会を生き抜くために必要な力を育てようとしています。本市が取り組んでいるICTを活用した教育について紹介します。

(備考)ICT…Information and Communication Technologyの略語で、情報・通信に関する技術の総称

(備考)GIGAスクール構想…1人1台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、これまでの学校教育と組み合わせることで、多様な子どもたちを誰ひとり取り残すことなく、その能力を最大限に引き出そうとする文部科学省の構想

学校教育のICT化とその狙い

情報化が加速度的に進むSociety5.0時代に向けて、子どもたちは、必要な情報を自ら選び取り、その情報をうまく活用していく力(情報活用能力)を身に付けていく必要があります。

そのために、学校教育にICTを取り入れ、子どもたちが情報化社会の中で夢に向かって挑戦し、未来を切り開いていく力を育みます。

(備考)Society5.0とは
IoTにより仮想空間と現実空間を連携して、すべての物や情報、人を一つにつなぎ、AIなどの活用により量と質を高める社会

公立小・中学校に整備するタブレット端末

キーボード付きWindowsタブレットを導入

令和3年3月末までに市内全ての公立小・中学校に1人1台学習用タブレット端末を整備し、学習をサポートします。

この端末では、インターネットにアクセスすることができ、さまざまなアプリを活用することができます。

ICT化で得られる効果

- 効果(1) 授業への理解が深まる
- 効果(2) 課題解決力や表現力が育まれる
- 効果(3) 一人ひとりの学びを最適化できる
- 効果(4) 教員の負担軽減が図れ、指導効果が高まる



個別最適な学び

子どもたちがICTを日常的に活用することで、自らの学習を調整しながら学んでいけるようになることを目指していきます。



協働的な学び

タブレット端末を効果的に活用すれば、友達と一緒に課題に取り組んだり、作品を編集したりする活動が、より簡単にできるようになります。



オンラインによる宇宙航空研究開発機構(JAXA)との連携教育

ICTを活用すれば、リアルタイムで遠隔地と結んだ連携授業も可能です。学びの幅が広がり、多様な考えに触れる機会が充実します。

本市はJAXAと協定を結んでいます。宇宙に関わる豊富な映像と最新の科学技術や情報をもとに、宇宙への知的好奇心を喚起する連携授業をオンラインで行っています。



▲1月28日 内部小学校 6年生「人工衛星とプログラミング」



内部小学校 教諭
柴田 享子

この1年の間に子どもたちがICTに触れる機会は増えました。教科書にも新しくプログラミングを体験する内容が入り、プログラミング的思考の重要性も高まっています。今後 ICTが整備された環境の中で子どもたちが自分の力を発揮できるように、教える側として手立てを考える必要があります。

プログラミングの授業は難しそうとおもっていたけれど、ゆっくり分かりやすく教えてもらえて、楽しかった

人工衛星を動かして、くるくる回すところが楽しかった

最初は人工衛星って難しそうだなあと考えたけれど、JAXAの人の説明と今日のプログラミングで分かりやすかった

内部小学校 6年



これまでの学校教育とICTを活用した学びが融合することで新たな学びを創造することができます。これにより、子どもたち一人ひとりが自分らしく輝ける社会の実現を目指します。

●この記事についてのお問い合わせ・ご意見は

教育支援課 ☎354-8149 FAX359-0280